

リニア連絡会

大深度工事で調査を

調布陥没受け市などに要請書

東京外郭環状道路（外環道）の工事現場に近い東京都調布市の住宅街で道路が陥没した問題を受け、大深度工事が計画されている川崎市内のリニア中央新幹線のルート周辺の住民らでつ

くる団体が二日、市と市議会に要請書を提出した。JR東海に地盤など安全性の調査や、工事状況について、住民への詳しい情報公開をさせるよう求めている。この団体は「リニア新幹

線を考える東京・神奈川連絡会」。JR東海は東京・神奈川、愛知の計約五十キロの都市部で、四十層より深い「大深度地下」のトンネルを掘る計画。二〇二一年度初めにはトンネル工事が

始まる予定だが、大深度地下使用法に基づき、用地買収などをしなくても公共利



会見する「リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会」のメンバーら＝市役所で

用が許されている。

川崎市内は、中原区等々力一麻生区片平の約一六・三キロの地下を通る計画。市によると、現在は市内五カ所を予定する非常口の建設が進められている。

連絡会の要請書によると、外環道の陥没現場周辺で空洞やガス漏れ、下水道管被害が起きたとして「大深度工事が決して安心できるものではないと明らかにされた」と指摘。地盤を調

べるための詳細なボーリング調査や、ルート周辺の家屋調査をJR東海に促すよう市に求めるとともに、水道管など地下インフラへの影響を含め、シールドマシンと呼ばれる大型掘削機で掘り進める地下工事の安全対策の提示も求めた。

ルートから約五百メートルに住む連絡会共同代表の天野捷一さん（七〇）麻生区は、ブロック塀などがびび割れた外環道の現場を視察

したという。市役所で会見し、「地価下落の恐れや、今度はリニア工事でも同じような被害が起きるのではないかという不安もある」と訴えた。県内のリニア工事を巡っては川崎市も二月、神奈川県、相模原市と共にJRに対し、万が一地表面等に異常が認められた場合には必要な対策を講じ、住民に説明することなどを求める要請を行っている。

（安藤恭子）